（様　式）

令和5年度　学校評価書

学校名：　静岡市立由比中学校

静岡型小中一貫教育における特色ある教育活動

大項目	中項目	グループ校の評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から（小中一貫教育評価委員会等）	改善策（来年度の目標設定,具体的な取組目標）
【視点1】 学校の教育目標を グループ校で共有する 担当：全職員（教務主任）	・自ら学び、進んで行動し、 他と協調できる児童・生徒 担当：全職員（教務主任）	①　（独自）児童生徒は、自ら学び、進んで行動し、他と協調できる （学校説明）○「自ら学び、行動し、協力する」ごとに対して、保護者・教職員ともに中間評価に比べ、肯定的な回答の割合が増加した。特に「周りの人と協力して学校生活を送る」に対しては、3者とも約90%の肯定的な回答であった。委員会等の仕事を仲間と協力して取り組む姿が多く見られた。▲「自ら学び、進んで行動する」についての児童生徒の結果は、中間評価よりも下回った。また、児童生徒と保護者の肯定的な回答が80%余りにとどまった。子どもたちの行動を認め励まし、自信をもたせることを推進し、自ら学び行動しようとする態度を身につけられるようにしたい。	B	・「傾聴」の姿勢が子ども同士のコミュニケーション能力を活性化させるのではないか。お互いに相手の思いをよく聞き、相手に寄り添い行動することで、「自発的」で「主体的」な動きが自然と身に付いてくるはずである。地域の大人が「自分たちでなんとかしないと」と自発的に動く姿を見て、ぜひ子どもたちも主体的に行動する力を身に付けていってほしい。 ・自ら学ぶ必要性と学ぶ喜びを自覚できるよう指導をしていく必要がある。 ・「他との協調」はよくできているが、「進んで行動」が弱い。まだ伸びしろはあるのではないか。	・コミュニティ・スクールの本格実施に向けて、これまで以上に「横のつながり」を強化し、地域とのつながりの中で教育活動を実践することで、教育目標の共有と浸透を図っていく。そのために、地域の方が教育活動へ参加する機会を増やし、学校と地域が協力して子どもの育成を支えていく。 ・児童生徒が自己肯定感を高め、自信をもつことを目指し、教職員全体が共通した意識で教育活動に取り組み、「自ら学び、進んで行動する子」の具現化を図っていく。そのために、子どもの姿を確実に見取り、肯定的な声掛けを積極的にすることで自発的な行動を促す。
【視点2】 9年間の連続性、系統性を強化した教育課程を編成・実施する	・相手に伝わるように表現できる子の育成 担当：学習部	②　（独自）児童生徒は、相手に伝わるように表現(①話す　②書く)できる。 （学校説明）○学習スキル表を検討し、各校教室に掲示することができた。教職員の肯定的な回答が84%と7月に比べて向上しており、意識して指導をしていることが分かる結果となった。また、3校で授業を見合うことで、それぞれの学校での子どもの様子や研修の様子を知ることができた。 ▲児童・生徒の肯定的な回答が7月に比べて約2%低下している。よい表現への価値付けや繰り返しの指導が必要であると考えられる。 ▲学習スキル表をつかってクラスとして授業を見合い、成果や課題を共有することは達成できなかった。また、教職員の授業参観への困難さに課題がある。新年度当初から学習スキル表を活用し、授業公開日の共有や実施方法の検討を行うことで、由比地区の児童・生徒の実態を、教職員がより実感をもって共有できるようにしていきたい。	B	・9年間の継続性、連続性に対して、視点を見直す必要があるのではないか。 ・クラスによって取組に差があるのは課題である。共通認識のもと指導していくことを確認してほしい。	○学習部 【視点を踏まえた教育活動】相手に伝わるように表現できる子の育成 【評価指標】児童生徒は、相手に伝わるように表現（①話す②書く）できる。 【具体的な取組】・スキル表を活用した、話すこと・書くこと・聞くことの指導 ・授業の見合いを行い子どもの実態を把握、課題の明確化 ・「学びのアンケート」を年2回実施
	・誰にとっても学びやすい環境づくり 担当：特別支援部	③　（独自）児童生徒は、落ち着いて授業に参加している。 （学校説明）○「語先後礼」や授業前準備の定着に加え、UDの視点での教室環境整備が進んだことで肯定が9割近くとなっている。中間評価より「とてもよくあてはまる」が児童生徒保護者ともに高くなっている。▲UDを意識した教室環境整備について、クラスによって取組の差がある。今後、良い実践例などを広めたり示したりしていく必要がある。	A	・クラスによって取組に差があるのは課題である。共通認識のもと指導していくことを確認してほしい。	○特別支援部 【視点を踏まえた教育活動】誰にとっても学びやすい環境づくり 【評価指標】児童生徒は、落ち着いて授業に参加している。 【具体的な取組】「語先後礼」のあいさつ、授業前準備、UDの視点視点での教室環境整備、実践例の紹介
	・規則正しい生活習慣を身に付け、心身ともに健康な状態を自己管理できる子の育成 担当：健康保健部	④　（独自）児童生徒は、食事や睡眠など、心身の健康を意識した生活をしている。 ○学校評価アンケートの結果から肯定的な回答が8割を超え、中間評価よりも高い評価となった。第2回のファミリーデー実施方法を具体的に示したことで、メディアの使用時間をコントロールしようとする意識が高まったと考える。また、ファミリーデーを園小中と同日実施を継続して行ったことで、家族全員でメディアを中心とした規則正しい生活習慣について理解を深め、コミュニケーションを取るきっかけにもつながった。 ▲ファミリーデーの趣旨は、メディアとの関わり方を家庭を軸に地域と共に考え、よりよい健康生活を意識しながらメディアをコントロールする力の育成に加え、周囲とのコミュニケーションを図る狙いがある。この趣旨をより明確にし、今後も継続的に活動を行っていきたい。	A	・子どもの表現力が課題となっているが、子どもたちの表現の引き出しの少なさを感じる。長文の読解力も課題と聞いたが、共通しているのは得た知識を活用する力なのではないか。活用するためには、多様な人との コミュニケーションの経験が欠かせない。相手が何を考えているのかを想像する、相手が何を欲しているのかを考える、これらのことが子どもの「伝えたい」「もっと思いを聞いてみたい」という必然性につながるのではないか。 ・表現力の課題克服のために、子ども同士で学び合う場の設定をするとともに、異なる意見を大事にする環境を育てる必要がある。 ・ファミリーデーでは、メディアとの関わり方を意識して行動する姿が見られる。準ファミリーデーやファミリー週間として、活動の機会を増やしてもよいのではないか。	○健康保健部 【視点を踏まえた教育活動】規則正しい生活習慣を身に付け、心身ともに健康な状態を自己管理できる子の育成 【評価指標】児童生徒は食事や睡眠など心身の健康を意識した生活をしている。 【具体的な取組】ファミリーデーの実施、こども園への指導、情報交換 ○環境安全部 【視点を踏まえた教育活動】安心・安全に過ごせる校内環境の持続 【評価指標】3校で校内環境の課題を共有し、小中で一貫した校内環境の在り方を検討している 【具体的な取組】 ①施設設備の安全点検をバージョンアップ ・児童生徒に校内で危険と思われる箇所についてアンケートをとり、結果をもとに改善する。 ・園内点検の追加 ②学校配当予算の情報交換 ③3校合同で大型ごみ回収 ※その他、園小中で校内の環境改善または協力できる箇所を話し合い、改善を行う
	・安全・安心に過ごせる校内環境の持続 担当：環境安全部	⑤　（独自）3校で校内環境の課題を共有し、小中で一貫した校内環境の在り方を検討している。 （学校説明）○今年度は3校の教頭・用務員・事務職員に3園を加え校舎内外を見回り、施設設備の安全点検を行った。指摘された危険箇所については安全対策を施した。また、互いの安全状況を確認することで、施設管理における危機意識も全体的に高まっており、学校評価アンケートからも児童87%、教職員100%、保護者92%と肯定的な意見をいただいた。	A	・ファミリーデーでは、メディアとの関わり方を意識して行動する姿が見られる。準ファミリーデーやファミリー週間として、活動の機会を増やしてもよいのではないか。	
【視点3】 教職員の協働、児童生徒の交流	・「心を伝える3ヶ条」を意識して行動する子の育成 担当：生活部	⑥　（独自）児童生徒は、「心を伝える3ヶ条」を意識して行動している。 （学校説明）○昨年度の取組に加えて、今年度は心を伝える3ヶ条に関するアンケートを実施することで、児童生徒への意識付けと実態把握を行い、中学校では集団の実態に応じた指導、小学校では全校集会であいさつに関する指導を行った。その他の取組として、特別活動部と連携し、あいさつへの意識向上を目的とした朝のあいさつモニターを実施した。 ▲児童生徒があいさつへの意識を継続的にもったり、自信をもてるようにあいさつを行ったりすることができるよう、教員からの声掛けや評価を欠かさずに行ったり、児童生徒が企画するあいさつ活動を実施したりすることが大切だと考える。また、地域の大人と児童生徒が顔見知りになることを目的としたあいさつ活動も実施したい。	B	・学校設備について互いに見合うのはよい取組である。さらに、児童生徒の視点から「ここが危ない」「ここが気になる」という声をあげてもらうこともやってみたらどうか。 ・PTAと子どもの活動をコラボレーションすることで、あいさつへの意識を高めていきたい。また、地域の取組として、子ども達に声掛けをしていきたい。町中があいさつが飛び交うようにしていきたい。 ・地域の行事（「八幡祭り」「地域防災訓練」）を通して、子ども達は人と人との助け合いの心や、人とつながることの大切さがより実感できたのではないか。相手から奪うのではなく、分け与える精神が由比地区の良さだと感じる。実際に、「ゆい結びあい」という活動を由比地区社会福祉協議会で行っているが、室野・入山地区ではほとんど依頼がこない。それは近隣の者同士で困ったら助け合っているからである。子ども達にも、誰かのために動ける大人になってもらいたい。 ・地域でよく挨拶できている。スタンプカードなど、学校での取組やしかけがうまく働いている側面もある。	○生活部 【視点を踏まえた教育活動】「心を伝える3ヶ条」を意識して行動する子の育成 【評価指標】児童生徒は、「心を伝える3ヶ条」を意識して行動している。 【具体的な取組】あいさつ活動（リモート）、実態に応じた声掛けや意識づけ、地域と連携したあいさつ活動 ○特活部 【視点を踏まえた教育活動】仲間と協力し、自分から行動する子の育成 【評価指標】児童生徒は、地域・学校・クラス・仲間の役に立とうとしている。 【具体的な取組】・あいさつ活動（リモートや対面） ・歳末助け合い募金など　各校での係活動や委員会活動など
	・仲間と協力し、自分から行動する子の育成 担当：特活部	⑦　（独自）児童生徒は、地域・学校・クラス・仲間の役に立とうとしている。 ○各校ともクラスや学校、地域のために自分のできることを行おうとしている姿が多く見られるようになった。委員会活動や係活動など任された仕事は最後まで責任をもって行なう姿が見られた。6月に実施した小中合同会議で話し合い、「あいさつモニター」に取り組むことに決まった。クロムブックのMeetを活用して3校をオンラインでつないで実践をした。場所は異なるが、各校が関わりをもつことができるよい機会となった。11月に実施した小中合同会議では、昨年度も行った「募金活動」を今年度は3校とも歳末助け合い募金を行なうことした。自分たちが行うことのできる範囲で、自分たちが住む地域である由比のために活動することができた。 ▲決められた仕事や活動は、進んで行うことができるが自ら進んで行動する力が弱いため、クラスのためや学校のため、地域のために自分で考えて行うことができる活動を取り入れていくことが必要である。▲クラスや学校、地域のために活動していても自己肯定感が低く、誰かのためになっているということに結び付けにくいため、各活動の後に大人からの価値づけをたさんしていく必要がある。そして、自己肯定感を高めていく。	A	・地域の行事で、「八幡祭り」や「地域防災訓練」を通して、子ども達は人と人との助け合いの心や、人とつながることの大切さがより実感できたのではないか。相手から奪うのではなく、分け与える精神が由比地区の良さだと感じる。実際に、「ゆい結びあい」という活動を由比地区社会福祉協議会で行っているが、室野・入山地区ではほとんど依頼がこない。それは近隣の者同士で困ったら助け合っているからである。子ども達にも、誰かのために動ける大人になってもらいたい。 ・地域でよく挨拶できている。スタンプカードなど、学校での取組やしかけがうまく働いている側面もある。	【視点を踏まえた教育活動】仲間と協力し、自分から行動する子の育成 【評価指標】児童生徒は、こども園、小学校、中学校と交流するよさを感じている。 【具体的な取組】・部活動紹介（リモート） ・児童会、生徒会合同会議（リモート：年2回） ・中学校1日体験入学 ・部活動見学 ・由比結交流（由比小と由比北小の交流）：授業や行事での交流 ・小中交流
	・仲間と協力し、自分から行動する子の育成 担当：特活部	⑧　（独自）児童生徒は、こども園、小学校、中学校と交流するよさを感じている。 ○本年度は3校であり多くの場で交流を行うことができた。由比小・由比北小では、各学年が授業での交流や社会科見学、行事での交流を実施、小学校同士の直接的な交流をする場を増やすことができた。また、中学校1日体験入学では授業や合唱祭を通して小学生と中学生の交流の場も作ることができた。中学の合唱祭を園児も見ることで、子ども園との交流も行うことができた。○「あいさつモニター」や「歳末助け合い募金」を通して、場所は違っても同じ活動を行ったり、クロムブックを通して交流をしたりすることができた。○由比結交流通信をetoruで配信することで、保護者にも交流をしている姿を共有することができた。 ▲小学校間士の関わりは「由比結交流」をしているが、小学校と中学校の関わりが「1日体験入学」や「あいさつモニター」「歳末助け合い募金」だけなので、小中が関われる取組みを検討していく必要がある。▲保護者への交流の様子を配信するには、分かりやすく見やすいものにしていくことが必要。▲直接交流をしていなくても、クロムブックや募金を通して関わっていることを子どもたちに伝えていく必要がある。目に見えない関わりがあることも伝えていけるとよい。	A	・連動能力の低下は非常に気になる問題である。誰かと競い合う、優劣がつくという経験は人を真剣にさせる。最近の学校では、なかなかそのような体験をさせないと聞くが、子どもの真剣さを引き出すためには必要なことではないか。 ・大谷翔平のグローブも、子ども達の野球への関心を高める手立てとして使えるのではないか。グローブをつけてキャッチボールをする経験がほとんどない子ども達に、ぜひキャッチボールをするきっかけにしてもらい、投力を高めていってほしい。 ・データを取り、保健体育の授業で課題に対して対応している。ありがたい。	【視点を踏まえた教育活動】仲間と協力し、自分から行動する子の育成 【評価指標】児童生徒は、こども園、小学校、中学校と交流するよさを感じている。 【具体的な取組】・部活動紹介（リモート） ・児童会、生徒会合同会議（リモート：年2回） ・中学校1日体験入学 ・部活動見学 ・由比結交流（由比小と由比北小の交流）：授業や行事での交流 ・小中交流
【視点4】 地域との連携	・地域と連携した取組 敬老の日・文化連盟芸術祭・青少年健全育成大会・地域防災訓練 担当：教務主任	⑨　（指標25）児童生徒は、今住んでいる地域の行事に参加している。 （学校説明）○今年度、地域の行事が4年ぶり再開した。特に地域のお祭りに（八幡祭り・由比街道祭りなど）学校が一丸となって参加したものも多かった。そのため、教職員のアンケートでは98%と高い結果となった。 ▲児童生徒のアンケート結果は60%となり、地域の行事に「進んで」参加しているという意識は高くないことが分かった。12月の地域防災訓練では、児童生徒が進んで参加する様子が見られたため、これを契機に地域と進んでつながる子どもの育成に努めていく。	B	・園小中一貫コミュニティスクールが始まっても、地域の祭りやあいさつ運動などでつながりを継続していきたい。他にも花の植え方を教える人、運動を教える人、読書の楽しさを教える人など、学校を応援できる人が地域にはたくさんいる。活用していってほしい。 ・自分たちの住む地域のために動く姿がありがたい。よくできている。 ・学校は児童生徒や保護者との信頼関係で動いており、簡単に切れる業務ばかりではない。見守られている安心感があるからこそ学校が落ち着いている。 ・業務改善も思い切ってやっていくことが大切である。取組の狙いを明確にして思い切って変えていくようにしてほしい。	○地域と連携した取組 ・敬老の日、文化連盟芸術祭、青少年健全育成大会、地域防災訓練等、地域主催行事に児童生徒が主体的に参加できるよう事前指導を行い、地域の一員としての自覚を深める。 ・園小中一貫コミュニティ・スクールの協働活動推進員のサポートを受け、地域人材をより活用し、由比地区の魅力や自慢について学ぶ機会をもつ。また、地域の行事や学校公開日などを活用し、学んだことを発信する機会を設定する。
学校環境	・教職員の業務改善 担当：教頭	⑩　（独自）教職員は、メンタルヘルスの状態・勤務時間外を把握し、その改善を図ろうとしている。 （学校説明）○年1回ストレスチェック制度を用い、自らのメンタルヘルスの状態を確認し働き方を見直す手立てとしている。 ○時間外勤務を減らせるよう、働き方改革を推進している。実践例としては、①各校にスクールサポートスタッフの配置、②勤務時間外の電話対応（留守番電話）、③「日直を置かなくてもよい日」を由比地区は年間4日を追加、④指導用端末で教材・教具の一部の作成・共有、⑤学校評価アンケート、行事の感想などをWeb アンケートに変更等を実施し、残業時間の短縮に努めている。	A	・自分たちの住む地域のために動く姿がありがたい。よくできている。 ・学校は児童生徒や保護者との信頼関係で動いており、簡単に切れる業務ばかりではない。見守られている安心感があるからこそ学校が落ち着いている。 ・業務改善も思い切ってやっていくことが大切である。取組の狙いを明確にして思い切って変えていくようにしてほしい。	○教職員の業務改善 ・メンタルヘルスを良好に保つためにストレスチェックを効果的に活用する。 ・今後も引き続き、働き方改革に有効なスクールサポートスタッフ、留守番電話、日直を置かない日、ICTの利活用等の取組を推進していく。 ・会議の時刻、提案形態等の基本スタンスを見直し、生産性を高めていく。
グループ校の軸となる取組・活動		グループ校の評価指標	自己評価		○ 由比結学（由比の「ひと・もの・こと」にかかわる学習） 【目標】由比を愛し誇りに思う子どもの育成 【具体的な取組】 ・地域を舞台にし、児童生徒が由比のまちの魅力を探究できる学習活動を展開する。 ・地域の支援体制（由比結協議会評議員の方）と連携し、由比のまちを深く理解する。 ・地域の企業やお店などで職場体験学習を行い、地域の人と触れ合ったり、地域の産業等について理解したりする。
◇由比結学 由比を愛し誇りに思う子の育成 ・地域を舞台にした学習の展開 ・地域の支援体制（由比結協議会評議員）と連携した取組 担当：教務主任		⑪　（独自）児童生徒は、由比のもつ良さや特色を知り、由比を自慢に思っている。 （学校説明）○学校評価アンケートの結果、児童生徒90%、教職員100%、保護者89%が肯定的な回答をしており、昨年度よりも高い結果となった。総合的な学習の時間「由比結学」や職場体験学習などで、地域の歴史・産業・観光などについて学んだり、地域に出て体験したりする機会を通して、由比の良さ・魅力を実感することができた。 ▲保護者・地域の方にも「由比結学」について知っていただき、学校と地域が協力して活動できる土壌を整えていく。	A		

各学校の評価

大項目	中項目	評価指標	自己評価		改善策（来年度の目標設定,具体的な取組目標）
重点目標	確かな学力の育成 担当：研修主任	⑫授業に意欲的に取り組み、つけるべき力がついてきている。 （学校説明）○学校評価アンケートより、肯定的な回答が生徒89%、教職員94%と高い評価になっている。特に生徒の回答が昨年度より5%向上していることから、生徒は落ち着いて授業に取り組んでいる中で力をつけることができていると考える。 ●全国学力・学習状況調査より、家庭学習の時間が短い傾向があるので、日々の取組について指導していきたい。	A	・授業が落ち着いてできているので,力をつけることができている。 ・小さい頃から一緒にいる仲間なので、お互いを理解することができている。逆に馴れ合いになって、悪い言葉遣いなどになってしまい相手を不快にさせていなか、気遣うことも必要ではないか。	【研修テーマ】「積極的に表現し、自らの考えを深める生徒の育成」 【具体的な取組】 ・伝えたいという思いを引き出す課題や目標を設定する。 ・学び合い時間を設定する。 ・ICT機器を活用しながら生徒の主体性を育む授業づくりをする。
重点目標	よりよい人間関係の構築 担当：生徒指導主任	⑬自分の良さや仲間の良さを見つけ、認め合っている。 （学校説明）学校評価アンケートより、肯定的な回答が生徒93%、教職員100%、保護者99%と高い評価になっている。また、全国学力・学習状況調査の「友人関係に満足している」の肯定的回答は90%であった。このことから、生徒同士がよい関係の中で生活を送ることができていると考える。	A		重点目標「良さを伸ばし共に高め合おう」に向け、3つの取組を意識して行う。 【具体的な取組】 ・生徒1人1人の良さを見つけ、認め、褒めて伸ばす指導を行い、自己肯定感を高める。 ・ステージごとに目標をもたせ、実現に向けた具体的な行動ができるように取り組ませる。 ・学級・学校・地域に貢献する場面と意欲をもたせ、互いに高め合うことにより自己有用感を高める。

静岡型小中一貫教育における特色ある教育活動（全国調査等の活用）

大項目	中項目	グループ校の評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から（小中一貫教育評価委員会等）	改善策（来年度の目標設定、具体的な取組目標）
学力の状況 （全国学力・学習状況調査）	小学校	（学校説明）【由比小】国語は、全国の平均正答率を上回っている。算数においては、全国の平均正答率とほぼ同じ結果であった。結果を分析し、課題として身に付けさせたい力は、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる力、わかったことや自分の考えを条件に合わせて書くカである。また、問題文の内容を読み取り、何を求められているのかを正確につかむ力も身に付ける必要がある。これらの力を育成するため、授業を中心に意図的に「書く場を設定し、適切な指導をする。条件を設定し、それを満たすような文章を書くように指導する。また、総合的な学習の時間等において、意図的に「情報を収集する場」「書く場」を設定し、表現する力（資料から読み取ったことを言葉で表す力）の育成を目指す。 【由比北小】国語、算数両教科で昨年度まで本校の課題であった長い文章題でも、何を聞かれているのか読み解く力はある程度定着していることが分かった。朝の5分間読解練習などの効果だと考える。しかし、資料などから読み取った情報を駆使して、自分の考えを話す・書くことには課題が残った。また、家庭での学習時間、読書時間の少なさも浮き彫りとなった。今後は、条件付き（キーワードなど）で自分の考えを語る、グラフや表等を読み取り、分析をしたものを話す・書くなどの練習を随時入れて、子どもの思考力・表現力を高めていきたい。	・全国学力・学習状況調査などで、どのような力がついていてどこが課題なのか分析を続けて欲しい。 ・家庭学習の時間が短くても力がついているのは、学校での授業が落ち着いており、集中して取り組めているということではないか。 ・読書時間の少なさを補うためにも、朝の読書活動を充実させていきたい。そのために、テーマを決める、同じ1ページの本を読み聞かせるなどして子どもの本への関心を高めることができる。地域とも協力していきたい。	【由比小】文章を読んで自分の考えをまとめる力や条件に合わせて書く力について、朝の学習の時間に目標を共有し、全学年で朝の学習の時間にドリル学習を行う。ここでも、新聞の記事を用いて学習する活動を通して、語彙を増やしたり、読解力を高めたりする取り組みをする。 【由比北小】昨年度課題だった表やグラフを読み取り、読み取った内容や自分の考えを書くことに対しては、5分ドリルなどの指導により、定着が見られた。しかし、長文を読み、登場人物の気持ちの変化や物語の中心をとらえることに課題が見られた。来年度は、読書習慣をきちんと付けること（月曜日朝に設定）、5分ドリルの文量を増やし、さらに力を付けていくことを手立てとして実践していく。 【由比中】授業の最初に行う自主学習の積み重ねにより、今後も基礎基本の定着を図っていく。自分の考えを伝える力を伸ばすために、授業で身近な題材を扱ったり、グループ学習で発言の場を増やすなど、表現力を高める工夫をしていく。
	中学校	（学校説明） 国語、数学、英語の3教科とも全国・静岡県の平均を上回るなど、日頃の取組から着実に力をつけることができている。各教科の授業で、自分の考えを深めたり広げたりするために、話し合う活動を大事にしているが、自分の考えや理由を説明することには課題が残った。また、家庭学習の時間が短い傾向も見られた。今後は、自分の意見を伝えたり、考えを説明したりする力を伸ばすよう授業改善に努め、思考力・判断力・表現力を高めていきたい。			
体力の状況 （新体力テスト、全国体力・運動能力、運動習慣調査）	小学校	（学校説明）【由比小】5年生の記録を男女別に全国平均と比較すると、男子は反復横跳びと20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳びの4種目で全国平均を上回っていた。普段の授業や生活で脚力を付けていると考えられる。しかし、上体起こしと長座体前屈、ボール投げが下回っていたため、体幹や柔軟性、身体全体を使って運動することにさらに意識を向けられるようにしていきたい。女子は握力以外の全種目で全国平均を上回っていた。学校全体の運動の傾向としては、昼休みに積極的に体を動かす児童が多く見られ、11月から一カ月間実施した持久走でも多くの児童が励んでいた。 【由比北小】小規模校のみ、全学年で新体力テストを実施した。全校児童の割合はA評価が19%、B評価33%、C評価29%、D評価19%で、平均としては B評価が多い結果となった。また、A評価の児童は中学年に集中して見られ、その他はばらつきがあった。得意な種目は反復横跳び（平均7点）、上体起こし（平均6.9点）であり、課題が見られたのは50m走（平均5.3点）、握力（平均5.8点）であることが分かった。本校では運動場に不毎朝サーキット運動を行い、さらに週2回の朝休憩の機会も設けている。休み時間には可能な限り外で身体を動かし、運動に親しめる環境づくりに努めていく。今回の結果を受け、走力や握力に課題が見られたため、ラダートレーニングを強化したり、登り棒や雲梯で握力を鍛えたりして、年間を通して継続した体力向上につながる指導をしていく。	・運動能力の低下は非常に気になる問題である。誰かと競い合う、優劣がつくという経験は人を真剣にさせる。最近の学校では、なかなかそのような体験をさせないと聞くが、子どもの真剣さを引き出すためには必要なことではないか。 ・大谷翔平のグローブも、子ども達の野球への関心を高める手立てとして使えるのではないか。グローブをつけてキャッチボールをする経験がほとんどない子ども達に、ぜひキャッチボールをするきっかけにしてもらい、投力を高めていってほしい。 ・データを取り、保健体育の授業で課題に対して対応している。ありがたい。	改善策（来年度の目標設定、具体的な取組目標） 【由比小】身体運動の基本となる体幹や柔軟性、身体全体を使って運動することにさらに意識を向けられるように、授業で行う準備体操やストレッチ、アップの際の声掛けや方法を工夫する。また、児童が競い合ってお互いを高め合える場を設定し、児童が身体運動と真剣に向き合えるようにして、主に投力を高めていきたい。 【由比北小】令和5年度体力テストの結果から、走力と握力に課題があることが分かった。改善策として、毎朝のサーキットトレーニングの内容を見直していく。ラダートレーニングにて変化をつけたり、鉄棒、登り棒、雲梯を集中的に行う期間を設定するなど工夫したい。また、令和6年度同様、静岡市体力向上支援事業の陸上運動授業支援の講師を出招き、専門的な指導を仰ぐことも効果的であると考える。冒険の遊びやゆみみ時間、体育の授業の準備運動で進ごこもしたり、雲梯で競争をしたりして、体育の授業や日常の遊び中で走力、握力を鍛える習慣をつけていきたい。 【由比中】長座体前屈と持久走の記録向上を目標に活動する。授業におけるウォーミングアップの活動に、柔軟性や全身持久力を向上させることを狙いとしたストレッチや3分間走を継続的に行う。
	中学校	（学校説明）			
生徒指導の状況 （学校いじめ防止基本方針）		（学校説明）【由比小】いじめ基本方針を元に、子どもを語る会を週一回行うとともに、道徳の授業実践を報告する場を設けた。授業と子どもの表われのつながりを意識して指導してきた。また、問題行動が発生した場合、職員の連携を大切にして迅速に対応することができた。そして、保護者と対話する機会を率先して設け、スクールカウンセラーの力を活用して、子どもに対するかかわり方を多岐にわたって考え、実践することができた。悩み事アンケートでは、いじめを感じている児童に対して丁寧に対応することができた。温かい人間関係が築ける環境作りに一丸となって取り組んできた。 【由比北小】少人数の良さを生かし、総合的な学習の時間や集会等、子どもへ一人ひとりが活躍できる場を設定し、居場所づくりに努めてきた。学級担任同士が子どもについて日頃から情報交換をし、子どもたちの内面理解に努めた。また全職員が参加する「子どもを語る会」では、子どもの良さにも目を向けつつ、気になる表れについても情報共有をし、いじめの未然防止の観点での話し合いを行い、日常の指導に生かすことができた。また、全校集会や学級の指導にて、「一人で悩みを抱え込まないこと」「悩み事があったら「心のポスト」を活用して相談してほしいこと」を伝え続けた。今後も全職員で情報共有をし、子どもの成長についても見届け、気になる表れについて迅速に対応していく。 【由比中】今年度は1件のいじめを確認した。初期段階で発覚し、学校いじめ防止基本方針に沿って対応してきたため、重大事態化することなく現在に至っている。11月には「悩みごとボックス」を一新したことを全校集会で周知し、困ったり悩んだりした時の行動選択について呼び掛けた。生徒のあられわれについて定期的に情報共有することで、職員が連携してトラブルを未然に防いだり、適切な対応をしたりすることにつながっている。今後も全職員で生徒のあられわれを注意深く見取っていき、早期発見、早期対応を心懸けていきたい。	・アンケートや悩みごとボックスを通して、自分のことだけでなく「あの子のことが心配だ」など、気になったことを記入することができるようにしたらどうか。自分のことはなかなか書けない児童生徒もいるので、周りからの情報も貴重になるのではないか	改善策（来年度の目標設定、具体的な取組目標） 【由比小】年間3回実施する悩み事アンケートに自分のことだけでなく、周りの心配な友達のことを記入する記入欄を追加し、より多くの情報を迅速に把握できるようにし、いじめの早期発見、早期対応のために努力する。子どもを語る会を職員間での情報共有の場として、一層活用し、児童の表われに対して、担任・学年だけでなく組織的に対応して問題解決をしていく。 【由比北小】いじめ防止基本方針のもと、悩み事アンケート後に子どもへ一人ひとりから思いを丁寧に聞き取る時間を設定している。また、子どもを語る会や学級担任会、職員室での担任間のコミュニケーションの中で子ども一人ひとりの良さや課題について情報共有をしている。今後も悩み事ボスの周知や、子ども一人ひとりのことを知ろうとする教員の意識の醸成を通して、子ども一人ひとりの思いに寄り添っていきたい。 【由比中】年3回実施する悩み事アンケート、常設の悩み事ボックス、担任と生徒の日記のやり取りをする生活記録ノートを活用し、いじめの早期発見・早期対応をする。また、いじめに限らず、生徒の気になるあられわれについてはこまめに情報交換を行う。